

イスラエルでワークショップを開催してきました。

昨年の2月、イスラエルへ出張に行ってきました。「幹細胞」をテーマとする、ワークショップを開催するためです。

イスラエルではライフサイエンス分野のなかでも幹細胞に関する研究が盛んで、トップクラスの研究者が多く活躍しています。日本でもiPS細胞の樹立に成功するなど、この分野の研究が盛んです。ところが、両国の研究者の積極的な交流は、あまり行われていませんでした。本分野に限らず、日本の研究者の交流相手となると、どうしても欧米、あるいは中国などに偏ってしまがちです。研究者個人でイスラエルにアプローチするのがなかなか難しいことも研究交流が進まない一因であるようです。

そこでJSTでは、政府間合意にもとづいて、両国の研究交流を促進しています。今回のワークショップもその一環です。小規模な学会のようなもので、いわば研究者同士の「お見合い」。研究者同士の国際交流を深めることがねらいです。

私は、このワークショップの企画と運営を担当。6カ月前から準備を始め、ついに当日を迎えました。

2月20日に成田を出発し、深夜にイスラエルのテルアビブ国際空港に到着。翌21日は、首都のエルサレムで協力機関であるイスラエル科学技術省



国際科学技術部

主査

山村将博(27) やまむら・まさひろ

●業務の内容

日本と海外の研究者同士の交流を支援する、戦略的国際科学技術協力推進事業を担当。相手国機関との交渉や省庁との調整、研究者のサポートなどを行う。主な担当相手国はイスラエル、フィンランド、カナダ、韓国など。

●Background

東京工業大学工学部化学工学科卒業。科学が社会とどう結びついているのかに興味があり、同大学大学院社会理工学研究科へ進学。総合政策や環境政策を学び、米国短期留学などを経て、修士課程修了後、JSTに入社。現在4年目。

(MOST)の担当者ミーティング。

22日は、イスラエルでトップクラスの研究機関であるワイズマン研究所と、幹細胞関連企業のKADIMASTEM社を訪問しました。

23日は、いよいよワークショップの初日。地中海に面した都市ハイファで、日本、イスラエル双方の研究者が研究発表、ディスカッションを行いました。その夜にはMOST主催のレセプションが行われました。

移動日ははさみ、25日はエルサレムのヘブライ大学で再びワークショップ。

26日にテルアビブ空港から帰国。日本に到着したのは27日の夜。約1週間の海外出張では、現地と顔を合わせて議論することの重要性を改めて認識しました。

準備の間は、国際電話やEメールで、イスラエル側の担当者であるナタンさんと、何度もやり取りしました。開催場所やスケジュールがなかなか決まらず焦ったこともありましたが、無事に終わってひと安心です。研究者からは、「ES細胞研究について有意義な意見交換ができた」「現地を訪門して得たものは大きい」との声があり、実際に日本とイスラエルで共同研究もスタートしています。

今年の9月に、またワークショップを行います。今度はイスラエルの研究者を日本に迎えます。



左:ワークショップでは日本8名、イスラエル12名の研究者が講演。イスラエルの研究者や学生など約70名の聴講者も参加。中:レセプションでの記念撮影。レセプションにはイスラエルの科学技術大臣や日本大使も出席。右:ワイズマン研究所。

TEXT:Office彩蔵